

第5回テーマ

16・17世紀人文主義教育から 今日の我々は何を学ぶことができるか？



司会: 川村信三 (上智大学)

提題者:

根占献一 (学習院女子大学)

「ルネサンスを旅する天正遣欧使節
とローマ・カトリックの世界」

渡邊顕彦 (大妻女子大学)

「異文化教材としてのギリシア・
ローマ古典とイエズス会教育」

桑原直己 (筑波大学)

「適応主義の源泉としての
イエズス会修辞学教育」

16・17世紀は、日本においてはいわゆる「キリシタン時代」にあたる。同時に、この時代には草創期のイエズス会がルネサンス的人文主義教育を体系的に展開して、その後の学校教育の方向を決定づけている。特に、今日でいう中等教育に相当する教育の大枠の形成において、この時代のイエズス会が果たした役割は大きい。

ところで、今日の日本においては「人文学の危機」などと言われ、人文系の学問の存在意義自体が問われている状況にある。

今回のシンポジウムでは、イエズス会を中心とする人文主義教育の原点を振り返り、改めて、そこから現代の教育全般、特にカトリック学校を中心とするキリスト教的な教育に対していかなる示唆が示されうるのかについて模索したいと考えている。

2018年3月10日(土)

12:40～15:30 (12:15開場) ニコラ・バレ(幼きイエス会修道院) 9階ホール

JR中央線・総武線 丸の内線・南北線 四谷駅 入場無料・予約不要

連絡先: artesliberaleschristianum@gmail.com